

令和2年度第4回 田辺市障害者施策推進協議会 会議録

1. 開催日時 令和3年2月26日 金曜日 午後7時30分～午後8時45分

2. 開催場所 田辺市民総合センター 4階 交流ホール

3. 出席委員 委員27名中 出席21名（うち代理出席1名）欠席6名

4. 事務局 障害福祉室 馬場崎室長、山崎主任、梶垣事務員

5. 傍聴者 1名

6. 内 容

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

(3) 議 題

①田辺市第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画（素案）について

・パブリックコメントの結果について

・素案の修正について

②その他

7. 議題に対する質疑応答

議題① 田辺市第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画（素案）について

●A委員

95 ページの田辺市障害者施設等一覧に、田辺市聴覚障害者協会が掲載されていないのはどういう理由ですか。

○事務局

田辺市内の福祉サービス事業所のみ掲載しています。

●B委員

83 ページの(2)社会参加支援のスポーツ・レクリエーション教室開催等事業は、どうかたちで実施されているのか。

●C委員

このスポーツ・レクリエーション教室事業は、田辺市社会福祉協議会が受託している事業でございますが、年間を通じてスポーツに参加される方が少なくなってきたことにより、現在、フラワーアレンジメント教室を定期的で開催しています。料理教室も定期的で開催していたのですが、今年度、コロナの影響で開催していません。この他、パビリオンシティ内の「いおり」において、お雛様のだるまづくりを実施しています。

年間のプログラムを、田辺市社会福祉協議会のホームページに掲載し、リピーターの方には、直接、印刷物を配布して周知しております。参加者数は、今まで、10名～20

名の間で推移していたのですが、今年度は、コロナの影響で10名を下回っております。

●D委員

精神障害者保健福祉手帳を所持している方へのアンケート調査結果、39ページの中で、「障害のある方が就労できるよう、それぞれの障害のある方への就労支援や障害者雇用の受け入れが多い地域で暮らしたい。」の項目がありますが、棒グラフの左側には、前回調査と比較すると良くなっているパーセンテージが記載されていますが、前回に比べると悪くなっています。棒グラフの右側には、前回調査と比較すると悪くなっているパーセンテージが記載されていますが、前回に比べると良くなっています。この項目について、良くなっているのか、悪くなっているのか教えてほしい。

○事務局

この項目につきまして、前回調査と比較すると良くなっているが2ポイント下がっていますが、悪くなっているも5ポイント程度下がっていますので、これはどうみればよいかという質問であるかと思えます。

手帳別に見ていきますと、37ページの身体障害者手帳所持者に関しましては、良くなっているが0.5ポイント上がっていますが、一方、悪くなっているも4ポイント程度上がっています。次に38ページの療育手帳所持者に関しましては、良くなっているが3ポイント程度下がっていますが、悪くなっているは0.5ポイント程度下がっています。

このアンケート結果につきましては、基本的に「変わらない」が大半を占める中で、数字的な事実としては、悪くなっているという数字はそんなに大きくないのですが、良くなっているという数字が伸び悩んでいることから、どちらかというとも悪くなっているというほうが大きいというふうに見受けられます。

●D委員

アンケートとしたら、良くなっているか悪くなっているかのどちらかに統一された方がわかりやすいと思えます。

○事務局

今回のアンケート調査は、過去のアンケート調査と比較できるように、基本的に同じようなつくりでアンケート調査を実施いたしました。このアンケート調査に「変わらない」という項目を入れてしまうと、そこにマルをつけたくなるということもあります。アンケート調査の内容につきましては、今後の検討課題かと思えます。

●E委員

最近では、コロナの影響もあってか相談件数が多いように思いますし、内容についても複雑になってきているように思いますので、対応についても、慎重に進めた方がよいと感じています。

あと、これまで、田辺市障害児・者相談支援センターゆめふるにおいて、田辺市のみを対象として委託相談支援事業を受けてきたのですが、令和3年4月からは、田辺市・みなべ町・上富田町・白浜町・すさみ町が対象となります。これにより、相談員も4名から8名に増員して対応します。非常に広い広域圏での事業となりますので、相談員がそれぞれカバー・協力しながら、進めていかなければならないことと、初めての取組でもありますので、非常に緊張感をもって望んでおります。

●F委員

就業センターでは、障害のある方が、就労前の実習や就職相談に来られているんですが、一時期、落ち込んだ時はございましたが、特に件数が下がっている傾向はありません。協力企業のおかげもあって、職場実習には事欠かない状況です。就職についても、グループで受け入れてくれるところはないんですが、単独での就労件数は、例年通り就職している状況です。田辺市教育委員会にも実習に入って、次年度への就職に向けて訓練中の方もいます。

今、心配なのが、就労移行事業所の利用者が減少気味であることと、今回の計画の中で数字を出していただいているように、就労移行を利用する方が減ってきていて、このままであれば就労移行の運営ができないということも我々の耳にも入ってきています。

こうしたことから、就労移行への焦点の当て方とか、特化した訓練のやり方とか、こういった訓練をして、就職先を探しますというように、もうちょっと就労移行をアピールすることが必要なのかなと思います。

●G委員

一般の方から、ワクチンはどうなっているのかという相談があります。先日、医師会の会議をズームで行ったんですが、医療従事者のワクチン接種の計画が、まだできてなくて、一応、3月の半ばぐらいの予定なんですが、一般の方々には、追々、お伝えすることになると思います。

●H委員

事前に会議資料を送付いただき、当日も会議資料を用意していただいているんですが、紙の資料ではなしに、PDF版の資料を検討していただきたい。

●会長

紙の資料はどんどん増える一方で、整理するのも大変である。資料の提供で、可能な方にはPDFにさせていただけるとありがたい。

●I委員

先程、ワクチン接種のお話でしたが、国からいつ出荷しますという情報が来ないので、現場ではやきもきしています。医療従事者から始まって、高齢者へとワクチン接種の予定なんですが、一般の方々の分も必ず届きますので、お待ちいただければと思います。

●会長

ワクチン接種の問題でいえば、国は高齢者や高齢者施設の接種時期については言っている。障害者施設の職員や利用者の方々に早くワクチンを接種しないと、感染した時の混乱は予想以上であると思いますので、国へ要望を上げています。

●J委員

コロナが落ち着くまで、短期入所の新規受入れをストップしている状況ですが、今後、その時の状況によって変わってくると思います。

●会長

緊急を要するときの受入体制ができないという部分もあるので、その対策を考えていく必要がある。本日の議題ではないのですが、問題点があればこの場でお話いただければと思います。

●K委員

一つ目に、13 ページのアンケート調査結果で、「これまでの生活を続けたい」の回答が圧倒的に多いのですが、これまでの生活がどういう状態なのかが、わかる方法がありますか。

二つ目に、施設入所から地域生活へ移行の数値も出ているんですが、就労の部分であれば、一般就職するという方法も出てきています。しかし、暮らしの部分となれば、やはりグループホームやアパート等、かなり狭い選択肢しかない。

うちの法人で、グループホームを利用しているのは、全体の1/4 しかないのですが、残りの3/4 が、10 年後にグループホームを希望しても、受け皿がないんです。施設入所者が、地域に出るとしても、受け皿の政策がしっかりしないと進まないのではないかと。国が、入所施設から地域へと言っているが、それを受けるための地域づくりやホームづくりが弱く、事業所に任せすぎている。事業所には、人がいない問題もあるんですが、グループホームをつくと運営が大変になってくる現状があって、必要とするものに対して応えられないと感じている。

最終的に、地域移行を進めるというのであれば、入所施設から地域へ何人出すことを優先するのではなくて、もう少し具体的な施策をつくらないといけない。どこで展開するか。この計画の中に入れるのか、別の方法があるのかわからないですが、その辺が大事ではないかと思えます。

○事務局

一つ目のご質問の「これまでの生活を続けたい」に関しまして、現在、どういう生活をしているのかがわかる方法なんですが、アンケート調査の間 11 で「現在どこで暮らしていますか。」という質問を設けてございます。今回の資料にはないのですが、第 2 回協議会の時に、アンケート調査報告書 17 ページでご説明させていただきました。その中で、自宅・アパート・公営住宅・グループホーム・会社などの寮・福祉施設に入所・病院に入院の選択肢を設けて、現在の状況は確認しておりますので、これまでの生活を続けたいということに対しましては、どういう生活をしているのかがわかるような状態になっています。

二つ目のご質問について、障害福祉計画の作成が始まった平成 18 年度から、障害福祉サービスの見込量を見込んで、達成できるように、各地方自治体で取り組んでくださいという計画になっています。入所の施設につきましては、地域生活への移行ということで取り組んできて、田辺市においても、一定の実績があがってきているのが実態です。

ただ、入所者の人数は減ってきているんですが、その分、短期入所の定数も増えています。短期入所を利用している人を見ますと、数年間、ずっと利用されている方、いわゆるロングのショートと呼ばれている利用者が多くなっている実態があります。入所者が減っているのかといえば、表に出てきている数字よりも減っていない現実がありますので、行政としては、表に出てきている数字のみではないということ、押さえておかないといけないと思っています。

国においても、いろんな施策を考えています。先ほど、グループホームの話が出ていましたが、グループホームを利用されている方も高齢になってきていることから、3 年ほど前に、日中支援型のグループホームの制度ができました。

元々、グループホームというのは、日中は、B型の作業所等へ行って、夜間と土・日曜日は、グループホームで生活するという制度になっていて、グループホームの費用は、それほどかからないだろうという想定のもとに、そこの支援員の費用設定は低く抑えられている傾向にあります。

日中支援型というのは、グループホームの利用者が高齢化してきて、B型作業所へも行けなくなってきて、平日の昼間においても、グループホームにいるような実態がありましたので、日中の支援をもっとするようなかたちのグループホームというようなことで、少し報酬額を良くしたような形の制度でございます。

これまでも、国・県への要望も上げてきておりますので、今後とも、報酬額についても全国市長会とか福祉事務所長会議等に対し、要望をあげてまいりたいと考えておりますので、そうしたことも踏まえながら対応してまいりたいと考えております。

そして、具体的な支援策として、施設を建設する場合、社会福祉施設等施設整備費補助制度がございます。この制度は、国の補助が1/2、県の補助が1/4、残りの1/4を事業所が負担することとなっているんですが、田辺市においては、事業所負担分1/4の半分、全体の補助基準額の1/8を補助する制度を設けておりますので、こうした制度も活用しながら、事業所の整備をしていただけたらと思います。

●K委員

一番大変なところに、しっかり予算を入れていただきたい。宿泊を伴う施設の支援員は減ってきているので、これをカバーするのは、やはり報酬額を上げるしかないと思う。その支援員がいなくなると、夜の介護は誰もいなくなるという不安がある。施設をつくっても、支援する人が来ないという現実があるので、今後、どう変えるかについては、行政と話をしながら、良い施策を実施していかないといけない。最後は、国がやるべきと思っているが、田辺市から発信をしてほしいと強く思います。

●L委員

91ページから用語集をつけていただいているんですが、「基幹相談支援センターにしむろ」は機関の名称であるかと思うんですが、次のページの「ゆめふる」や「西牟婁圏域自立支援協議会」もそうですが、これらの機関の所在地や事務局がどこにあるかを記載いただければ、一般市民の方々にわかりやすいと思います。

議題② その他 なし